

国際社会から見た日本

男女共同参画基本法には「男女共同参画社会の形成は、国際的協調の下に行われなければならない」とあります。今回の特集では、日本の男女平等はどの程度実現しているのか、どんな課題があるのかを諸外国と比較しながら考えます。

明治の先人が夢見たもの

間もなく迎える令和3(2021)年は、埼玉県の誕生150周年となる記念の年です。

埼玉県が誕生した明治4(1871)年には、日本の近代化に大きな影響を与えた岩倉使節団の欧米派遣がありました。彼らは先進各国の政治事情などを比較しながら産業や文化を体験し、帰国後は、文明開化を夢見ながら政治経済や科学技術、教育文化など様々な分野で活躍しました。

この使節団には、留学生として津田梅子も同行しており、女子英学塾(現在の津田塾大学)を開くなど女子教育の先駆者となりました。

また、明治新政府は、散髪や洋装、鉄道や洋風建築など西洋の文化、産業、技術の導入を積極的に推し進め、やや性急に過ぎる西洋化は様々な弊害も生みましたが、先人たちが実現した夢は、現代日本の確かな礎を築いたと言えるのではないのでしょうか。

そして、現代の日本は主要7か国首脳会議のメンバーになるなど国際社会からの信頼を得て、世界的課題について責任ある立場で発言をしています。

しかし、現代社会の象徴である男女共同参画に関して諸外国と比べてとき、日本の状況はどのようなのでしょうか?

男女共同参画の国際比較

男女共同参画に関する国際的な指数は、いくつかの国際機関や非営利団体がまとめています。

その一つである「世界経済フォーラム(WEF)」は、各国の経済、教育、健康、政治の4分野における男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数」を毎年公表しています。

この指数は、完全平等を「1」、完全不平等を「0」として数値化するものですが、令和元(2019)年12月に発表された日本の総合スコアは0.652、順位は153か国中121位となっています。

このような統計データを詳しく見比べると、日本は政治分野や企業の要職に女性が少なく、また賃金や高等教育(大学、大学院)の男女格差が大きいことが分かります。

表1 日本の各分野におけるスコアと順位

分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
教育	0.983(91位)	0.994(65位)
健康	0.979(40位)	0.979(41位)

グラフ1 GGI(ジェンダー・ギャップ)指数2020 各分野の比較

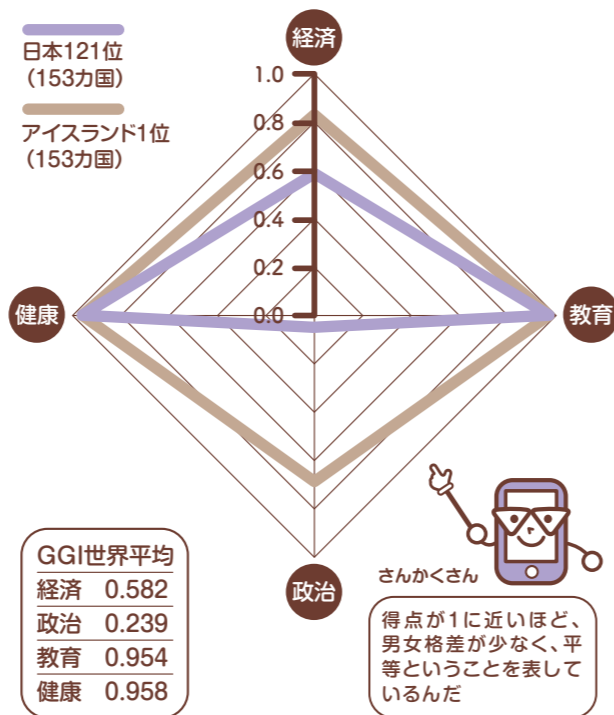


表2 GGI(ジェンダー・ギャップ)指数2020 上位国及び主な国の順位

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.877
2	ノルウェー	0.842
3	フィンランド	0.832
4	スウェーデン	0.820
5	ニカラグア	0.804
6	ニュージーランド	0.799
7	アイルランド	0.798
8	スペイン	0.795
9	ルワンダ	0.791
10	ドイツ	0.787
15	フランス	0.781
19	カナダ	0.772
21	英国	0.767
53	米国	0.724
76	イタリア	0.707
81	ロシア	0.706
106	中国	0.676
108	韓国	0.672
121	日本	0.652

World Economic Forum「Global Gender Gap Report 2020」より引用

ジェンダー・ギャップ指数

(2019年版)

153か国中...

121位

SDGsと男女共同参画

SDGs(エスディー・ジーズ)という言葉をご存知でしょうか。これは、2015年に国連で採択された「2030年までに実現することを目標とする持続可能な開発目標(サステナブル・デベロップメント・ゴールズ)」のことです。「誰一人取り残さない」を基本理念に、環境、エネルギー、産業、貧困など私たちの世界を変革する17のゴール(目標)が設定されています。

このゴールの一つに「5. ジェンダー平等を実現しよう(ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを行う)」という目標があります。世界人口の半数を占める女性が男性と等しく社会に参加することができれば、途上国など多くの国々で起きている児童婚などの痛ましい差別に苦しむ人々を救うことができます。また、途上国だけでなく、多くの国が抱える経済成長や貧困、教育など様々な課題を解決できます。

SDGsを達成するためには、政治、経済、社会生活などのあらゆる分野の意思決定の場に女性の参画を進める必要があります。男女平等の実現は、単にゴールの一つとして設定されているだけでなく、他のすべてのゴールの達成に不可欠とされているのです。

平等なリーダーシップの機会確保や家族内の責任分担、男女の分け隔てない雇用と賃金格差の是正など、SDGsの取組を通じて解決できる課題は少なくありません。

表3 2020年 SDGs インデックス

順位	国名	順位	国名
1	スウェーデン	15	スイス
2	デンマーク	16	ニュージーランド
3	フィンランド	17	日本
4	フランス	18	ベラルーシ
5	ドイツ	19	クロアチア
6	ノルウェー	20	韓国
7	オーストリア	21	カナダ
8	チェコ共和国	22	スペイン
9	オランダ	：	：
10	エストニア	：	：
11	ベルギー	31	アメリカ
12	スロベニア	：	：
13	イギリス	：	：
14	アイルランド	48	中国

日本のスコア

100点満点中
79.2点
世界17位
(166カ国)

SDGsインデックスは世界各国のSDGsの達成度を数値で示したランキングだよ。たとえば、日本のスコアは79.2点だけど、これは17の目標全体を通して、平均すると、「最高の結果(100点)」の79.2%まで至っているということを示しているんだ。

2030年、夢のその先へ

今年発表された各国のSDGs達成度を見ると、日本は100点満点中79.2点で世界17位です。多くの国ではSDGs達成度とジェンダー・ギャップ指数の順位は比例しますが、日本は男女平等の達成度が極端に低く、大きな課題となっています。

埼玉県では30歳代、40歳代女性の就業率の落ち込み(M字カーブ)が回復傾向にあります。女性は男性に比べてパートタイムなどの非正規雇用が多い、正規雇用で働いていても会社役員や管理職に占める割合が低いなど、女性の能力が十分に活用できていないとの指摘もあるところ。

また、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症は、脆弱な立場に置かれやすい女性に一層深刻な悪影響を及ぼしています。このようなコロナ危機が顕在化させた男女格差は以前から指摘されており、緊急性が高く根深い問題であると言えます。

男性中心の政治や経済の慣行、性別による固定的な役割分担を見直すことなどは、SDGsで取り組む「変革」の対象です。男女格差の少ない先進諸外国と日本との違いを学び、よりよい仕組みを取り入れていくことは正に「令和時代の文明開化」と言えるのではないのでしょうか。

そして、2030年の「ゴール(夢)」を実現した後も「持続」していくことがとても重要です。男性も女性も、誰もが幸せになれる社会をイメージして、その実現のために一人一人が行動することを、みんなで一緒に考えてみませんか。

